



⑥ コメツキムシ幼虫 (ハリガネムシ) によるトウモロコシの被害 (富岡)



⑦ イソキサチオン水和剤粉衣によるコメツキムシに対する効果 (富岡)

ラナ科)関係の参考書に数多く書かれているので、それらを参照して頂きたい。

また、飼料作物の害虫に関する研究は不十分な面が多く、昭和56年宗谷地方にギンムジハマキが大発生して草地が壊滅的被害を受け、昭和55~56年には積丹半島でギンブチツトガがチモシーに大

発生している。クサキイロアザミウマとカホンカハナアザミウマがトウモロコシに昭和51年以降しばしば発生し初期生育を遅延させている。これらの害虫についてはほとんど研究されておらず、このほかにも思わぬ重要害虫がひそんでいる可能性もあり、今後の研究の進展を期待したい。

サイトウ新品種「スノークロップ112」 の特性および栽培のポイント

雪印種苗(株) 千葉研究農場 近江 公

1 サイトウの作付状況

サイトウ(インゲンマメ)は、昭和57年の統計では全国でおよそ1万2,000 haの作付面積があり、その生産量は9万6,300 tにのぼっています。県別で見ますと、表1のとおり作付面積、生産量ともに福島・千葉・茨城の3県が上位を占めていますが、その他の都道府県でもまんべんなく栽培されており、その作型も地域、地域で異なり多岐にわたっています。

サイトウは、温かな気候を好み寒暑にはともに弱い作物ですが、温度管理さえしっかり行えば非常に栽培しやすい作物です。また、播種から収穫までおよそ60日程度で到達し、比較的栽培期間が短くてすむことも大きな利点で、このため全国的に主要作物の前後作物として非常に利用価値の高い作物となっています。また、農業従事者の高齢

化が進んでいる中で、労力的にはほとんど収穫の手間しかかからないサイトウは、魅力的な作物といえます。また労力的な問題について品種面からみるならば、収穫量がいくら多くても、栽培管理に手間がかかるつる性品種より、わい性品種(つるなし)への期待が高まってきています。

今回、弊社でサイトウ新品種「スノークロップ112」を発表しましたので、以下、品種特性及び栽培のポイントをご紹介します。

表1 サイトウ作付面積及び生産量

(昭和57年度農水省統計)

	作付面積 (ha)		生産量 (t)	
	全 国		全 国	
1	福 島	1,280	福 島	9,920
2	千 葉	920	千 葉	9,150
3	茨 城	733	茨 城	6,400
4	長 野	510	高 知	4,680
5	鹿 児 島	431	沖 縄	3,900

表2 スノークロップ112, 他3品種の生育特性

年次	場所	品 種	初期生育	開花始 日数	草丈 cm	莢 の 特 性			
						色	わん曲程度	長さ cm	幅 cm
58	中研	さつきみどり2号	中	61	—	緑	強く曲がる	16.6	0.93
		スノークロップ	ヤ良	60	—	濃緑	直	14.9	0.82
		そよみどり	良	62	—	淡緑	直	16.2	0.97
58(春)	千研	さつきみどり2号	良	60	—	緑	軽く曲がる	16.3	0.92
		スノークロップ	ヤ良	38	47.4	濃緑	強く曲がる	14.6	0.80
		そよみどり	ヤ不良	41	55.0	濃緑	軽く曲がる	14.3	0.75
58(夏)	千研	そよみどり2号	良	41	51.6	ヤ濃緑	軽く曲がる	14.5	0.84
		さつきみどり2号	良	40	62.6	緑	軽く曲がる	14.5	0.82
		スノークロップ	良	31	48.1	濃緑	強く曲がる	12.9	0.81
		そよみどり	ヤ不良	33	49.5	濃緑	ヤ軽く曲がる	13.0	0.72
		そよみどり2号	ヤ良	33	50.0	緑	ヤ軽く曲がる	13.0	0.79
		そよみどり2号	ヤ良	32	53.6	緑	直	12.4	0.87

備考 播種日 中研 5月24日 千研(春播き)4月28日 (夏播き)8月20日

2 スノークロップ 112 の品種特性

「スノークロップ112」は、つるなし、すじなしの丸莢品種で、弊社で開発育成した優良品種です。

1) 早晚性

スノークロップ112は、極早生品種さつきみどり2号より5日から1週間程度遅れる中生品種です。開花時期はほとんど変わりませんが、その後の莢の伸長はゆっくりで、比較的湿度の高い春播き栽培で5日程度、莢の伸長期が低温時期に向かう夏播き抑制栽培では1週間程度の遅れが生じます。

2) 耐倒伏性

耐倒伏性の弱い品種は、性質的にまっすぐな莢であっても地面について曲がってしまい、上物率が低下してしまいます。その点、スノークロップ112は耐倒伏性が強く、草丈も約50cm前後とあまり高くなく、また先端の葉が小さいので植物体のバランスが良く、形態的にも倒伏に強い品種です。

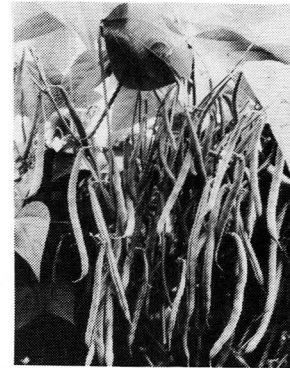
3) 莢の特性

スノークロップ112の莢色は濃緑で、その濃さは際立っています。さつきみどり2号とともに葉の色も濃く、他品種との色の違いが一目でわかり

表3 スノークロップ112, 他3品種の収量特性 (a 当り)

年次	場所	品 種	総 収 量			上 物 収 量			上 物 率	
			莢数	莢重kg	同比	莢数	莢重kg	同比	重量%	
58(春)	千研	さつきみどり2号	39,360	185.2	119	24,000	113.8	93	61.4	
		スノークロップ	51,860	190.8	123	40,800	152.7	125	80.0	
		そよみどり	30,660	155.6	(100)	23,600	122.6	(100)	78.8	
		そよみどり2号	33,260	143.2	92	25,700	114.2	93	79.7	

備考 播種日 千研(春播き)4月28日



収穫適期のスノークロップ112

ます。また、濃緑品種は全般的に莢の曲がりが多いものが多い中において、この品種はほとんど曲がらず、その結果上物率も高くなっています。

スノークロップ112の最大の特徴は、表2でもわかるとおり、他品種と比べて莢幅が1mm程度細く、莢が非常にスリムであるということです。その点で、見た目に柔らかさと新鮮さがかもしだしています。また、子実の肥大に伴うくびれや、とり遅れによる曲がりが生じないのもこの品種の大きな特徴で、このため収穫方法は、後半まで待つて短期一斉に収穫する方法でも、長期にわたって

収穫する方法でも、どちらにも適している品種だといえます。

4) 収量性

表3のとおり、スノークロップ112の莢数は他品種と比べてかなり

多いことがわかります。しかし、前述したとおり、非常にスリムな莢のため1莢重は軽く、収量は莢数ほど他品種との差はありません。それでも上物収量では、そよみどりより25%も多くなっています。一方、さつきみどり2号は総収量でみるかぎり、スノークロップ112とほとんどかわりませんが、上物収量でみると、上物率が低いためそよみどりやそよみどり2号と同程度の収量におちています。

5) 上物率

このように、さつきみどり2号が約60%の上物率であるのに対して、他の3品種は約80%の上物率となっています。スノークロップ112は莢数が多く、なおかつ下物がほとんどない非常に収益性のあがる品種だといえます。

3 栽培上の注意点

1) 適応地域及び作型

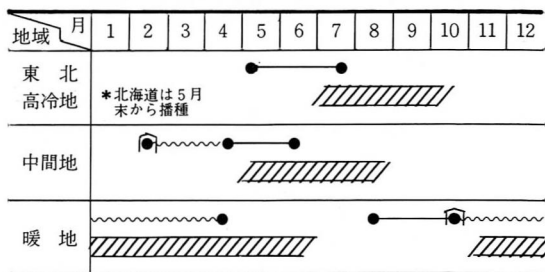
スノークロップ112は収穫はじめが多少遅れるが、収穫期間が長く、また収穫盛期の山も中ほどにあり、生育旺盛で、しかも、高温期に入ってから、莢の伸長の良好な品種です。従って東北、北海道から、関東以西の春播栽培に適しております。スノークロップ112の各地域における栽培型を図1に示しました。各作型での試作結果によると地区によって多少収量に差は見られましたが、莢色、品質については極めて良好な評価を得ております。

サイトウは、冒頭でも述べましたとおり極端な高低温に弱い作物です。このうち低温については、施設、資材を利用しての栽培の普及によって、ある程度の作期の拡大がはかられましたが、他方の夏季の高温期については、未だ限られた地域でしか作付できないのが現状です。それというのも、30℃以上になると著しく落花して結莢率が低下するため、これは夜温が低温になればある程度そ

表4 スノークロップ112栽培密度試験一収量特性 (a 当り)

年次	場所	栽培密度		栽培本数	総収量			上物収量			上物率 重量%
		株間×株立本数	cm		本数/a	莢数	莢重kg	同比	莢数	莢重kg	
58(夏)	千研	20×	1	1,000	21,540	52.4	(100)	11,060	29.5	(100)	56.3
		×	2	2,000	23,200	60.6	116	10,600	32.2	109	53.1
		10×	1	2,000	29,540	74.5	142	15,460	44.7	152	60.0
		×	2	4,000	31,460	75.6	144	14,260	41.0	139	54.2

備考 畦間 50cm



●~~~~ハウス・トンネル・マルチ ●●● 播種 // 収穫
図1 スノークロップ112の栽培型

の害を軽減することができます。このように、サイトウを栽培する際、開花時期がいつになるかを充分念頭に入れ播種日を決定する必要があります。この点については、スノークロップ112も例外ではないので注意して下さい。

2) 適度な栽植密度

スノークロップ112は、1個体の植物体の葉面積が小さいので、密植に適した品種といえます。表4でもわかるように、総収量では密植にすればするほど、莢数も莢重量も多くなっているのがわかります。しかし、株間10cmの場合、1本立にするのと2本立にするのでは、栽植本数が2倍になっているのにもかかわらず、それほど収量は伸びていません。逆に上物収量でみると、莢数、莢重量とも1本立のほうが多いことがわかります。このようにスノークロップ112は、確かに密植に適した品種といえますが、過度の密植は効果があがらず、かえって上物率を低下させ、上物収量が減少することを示しています。また、同じ栽植本数では株間を拡げて2本立にするよりも、その半分の株間で1本立にするほうが総収量、上物収量ともに多いことがわかります。

4 まとめ

スノークロップ112は、品質と高温期に向けての多収をねらいとして開発育成した優良品種です。その莢の濃緑色でほとんど曲がりのないスマートな外観は、今後大いに市場をにぎわす品種となり、食卓に色どりと食味をそえることでしょう。